

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



山形県山形市の蔵王

目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 災害対策本部会議 議事録
3. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
4. 石巻研修会の報告
5. 現地支援活動報告①②
6. 現地・事務所協力員の感想文

災害対策本部からのお知らせ

災害対策本部会議を開催しました！！

平成 24 年 1 月 23 日（月）19 時～ 日本医療社会福祉協会会議室にて災害対策本部会議を開催しました。詳細は「災害対策本部会議 議事録」をご参照ください。

災害支援 SW 報告会について

今回は 3 月を予定しています。

日時・会場が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

現地・事務所協力員募集！！

引き続き現地・事務所協力員を募集しております。

慢性的に人手不足の状態です。

ご協力いただける方は災害対策本部までご連絡下さい。

なおホームページにて現地・事務所の活動カレンダーを掲載しておりますので、ご参照ください。

現地活動カレンダー：http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/22_Img_PDF.pdf

事務所活動カレンダー：http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/28_Img_PDF.pdf

現地の活動状況について

現地の日々の活動の様子をご覧いただけるようホームページに日報を掲載しております。皆様、ぜひご覧になってください。

現地日報：http://www.jaswhs.or.jp/touhoku/news.php?cat=1&@Page_Status@=none

災害対策本部では、みなさまからのご意見、ご感想をお待ちしております。ぜひお寄せください。

<連絡先>

災害対策本部 月～金：10:00 から 17:00 土：10:00～12:00

TEL：03-3351-5038 FAX：03-5366-1058 Mail：dsstsw@jaswhs.or.jp

災害対策本部会議 議事録

出席者（順不同・敬称略）

災害対策本部長（佐原） 現地担当者（武山・佐藤） 事務所ボランティア代表（取出・東）

理事（坪田・飯島）・日本財団 災害研修担当（梅崎）

欠席：災害対策本部副部長（笹岡） ニュースレター担当（小淵）

1. 広報についての変更事項

- 飯島理事のご尽力により災害支援活動のページが変更された。
- 災害支援ニュース発行時に、事務所および活動支援協力員へお知らせメールを開始する予定。
- 現在、石巻現地から【(協会用) 日報】と【HP 用日報】を分けて送信しているが、今後は【(協会用) 日報】のみを送信するよう変更。また、平成 23 年 11 月より宮城県協会庄司会長へ日報を送付している。（メール本文の配慮から他の方々とは別送信。）
- 今後の広報活動のために、フェイスブックやツイッターを災害支援広報に取り入れる予定。
- （会員より）毎日の“活動 SW 数”と“業務量”を HP に載せる等、マンパワーの必要性が伝わるような内容が公開されれば、参加していない SW も現状を把握でき、協力を促せるのではないかと。
→・前向きに検討していく。日報掲載を始めたのでニーズには応えられているのではないかと。（取出）
・できる限り日報に反映し記入していく。（武山）

2. 現地からの報告

1) 近況

- 平成 23 年 10 月～12 月の活動
 - ・茶話会開催を中心とした仮設居住者への相談支援（仮設住宅居住者相互を繋ぎ、自治組織、自主活動のきっかけづくり、活動の後押しの事業）
 - ・石巻災害復興支援協議会仮設サロン支援連絡会への定期参加、情報交換、効率のよい支援
 - ・河南支所管内の仮設団地の関係者ミーティング、情報交換、個別支援協働
 - ・『在宅被災者支援 石巻医療圏 健康・生活復興協議会 調査・フォロー事業』を通じての支援（医療福祉相談）
- 1 月以降に追加された活動等
 - ・「石巻災害復興支援協議会仮設サロン支援連絡会」への参加を開始。
 - ・市民協働推進課より「小規模仮設住宅で自治組織設立の説明会」への同席を提案された。
 - ・石巻市より、相談会・茶話会の開催と、それ以外のさまざまな間接的活動を含む全ての活動を「社会福祉士等相談支援事業」として認めるとの見解が出された。

2) 課題・検討事項

- 日本協会または理事の、現地への関わり方について以下の内容で再確認を行った。
 - ・災害支援活動の方針案は、災害対策本部会議（本会）にて立案し、理事会へ提案すること。
 - ・理事においては、定期的な現地訪問を極力行い、活動に対する意見を持つ存在となること。更に、災害支援活動の方針が理事会にて最終決定される際、現地の状況の理解者として議論に参加すること。
- 毎週木曜日は、16 時より祐ホームクリニックの会議、18 時よりケース検討会が開催されている。毎週の参加が望ましいが、現在、担当者の都合により月に 2 回程度の参加にとどまっている。
→今後平成 24 年 2 月および 3 月の上記開催時について、現地担当者がやむを得ず不参加となる場合、原則として災害対策本部内（佐原氏・笹岡氏・梅崎氏）が参加していくこととする。
また、理事からの参加者を依頼。今後、理事会へ提案していく。

- (会員より) 被災地で活動している保健医療ソーシャルワーカーの今の思い、日本協会としての災害支援活動への思いなどを知る活動があるか。
→今後、希望があれば日報、災害対策支援ニュースなどを配布し、協会の活動を伝える事を検討していく。まず始めに、佐原会長、梅崎氏が1月27日に開催する宮城県SW対象の研修会にてアンケートを実施し、要望を確認する。
- 日本協会として、現在の様々な活動についての評価・分析を以下のように検討する必要があるのではないか。
 - ・「在宅被災者支援 石巻医療圏 健康・生活復興協議会 調査・フォロー事業」の事業の評価。
 - ・遊楽館、仮設住宅支援、在宅避難者支援のあり方、MSWの役割などの評価から、必要人員配置や支援の成果を評価する事を専門に考える人材がいてもよいのではないか。
 - ・今回の経験を踏まえて、連携・協働についての理論化、評価。
 - ・大学院の研究者等、災害支援ソーシャルワークを専門とし、現地に常駐しながら学術的な立場からも活動を見てくれる人材を募集してはどうか。また研究職でそのテーマの活動を希望する人はいないか。
 →今後、理事会へ提案。
- 活動してきた災害支援協力員(ソーシャルワーカー)の1年間のまとめを作成したい。
→本の出版を検討する。出版に尽力して頂ける出版社を探し、今後、理事会へ提案。
- 日本協会として災害支援対策をどう捉えていくかを、取り組んでいく必要があるのではないか。
例として以下の意見が挙げられた。
 - ・社会活動委員会で作っているガイドラインに現地の活動を加える。
 - ・自分の地域が被災した時にどう備えるか。
 - ・東京の被災にどう備えるか。
 また、このような取り組みが開始されれば参加したいとの意見もある。
→引き続き検討し、理事会へ提案するとともに、理事会からの提案を頂く。

3. 事務所からの報告

1) 近況

- チーム医療推進協議会へ、「東日本大震災への支援活動と提案(政府への提言)」と「都道府県へ配布する小冊子」の原稿を提出した。(ホームページにて確認可)
- 災害支援SW報告会を、平成24年1月20日(金)19時~21時にて開催した。15名が参加。なお、報告はホームページの災害支援ニュースを参照のこと。
また、開催についてのアンケート調査を実施した。(ホームページで確認可)

2) 検討・要望事項

- 災害支援SW報告会について
これまで月1度の開催をしてきたが、今後①開催目的 ②開催頻度 ③開催場所 を再検討したい。
→平成24年1月20日実施のアンケート結果より、以下の内容に決定。

①開催目的：活動報告

これまでの活動オリエンテーションは、映像ビデオをホームページ上で確認できるようにし、報告会の機能と分けるようにしていく。映像ビデオの作成は事務局と現地で検討、立案する。

②開催頻度：2~3カ月に1回程度

③開催場所：(検討継続)

現在の東京都内での開催だけでは遠方の方の参加が困難なため、地域の県協会などと共催し、地域を変えて実施することを提案していきたい。

事務所は企画に協力するが、企画・実施主体は、地域(県協会あるいは有志)にお願いする方向で広報していきたい。

4.各種シンポジウム・学会等への活動報告

1) 平成 24 年 1 月 27 日 (金)

石巻研修会「エコマップをアセスメントに活用する」

- ・梅崎氏、佐原氏含む約 20 名の参加を予定。
- ・配布資料（お土産）を準備し配布する。
 - 一・チーム医療推進協議会作成の災害時の報告
 - ・最新の災害支援ニュース 1~2 号分
 - ・最新の日報 1~2 日分

2) 平成 24 年 3 月 3 日 (土)

日本医療社会福祉学会セミナー

- ・石巻市の方を招待予定。

3) 平成 24 年 3 月 25 日 (日)

災害シンポジウム

(ソーシャルケア従事者協議会、社会福祉大学経営者協議会、日本社会福祉学会連合共催)

- ・一原氏、佐藤氏がシンポジストとして登壇予定。
活動報告ではなく、どのような SW を展開したかについて報告予定。

4) 平成 24 年 5 月 25・26 日 (金・土)

群馬県大会での災害シンポジウム (3 時間枠) について検討

座長 : 日本協会災害対策本部

シンポジスト : 群馬県協会員

日本協会員

福島県協会員

岩手県協会員

宮城県協会員

コメンテーター : 災害支援関係者

学会発表 : 遊楽館の支援者

仮設住宅の支援者

事務所の支援者

5) 平成 24 年 5 月 27 日 (日)

助成金災害ソーシャルワーク研修会 (案)

- ・ 9:30 受付、10:00~12:00 開催
- ・ 災害救助法について実践的に講演可能な方を依頼予定。
- ・ 相談の実際について弁護士会または木下氏へ依頼予定。
- ・ 第 2 回以降、シリーズ化していくテーマ候補は以下。
 - 自衛隊の動き、DMAT、ローラー作戦、心のケアチーム

5. 次回の会議予定

日時：平成 24 年 3 月 2 日 (金) 19 時~21 時

場所：日本医療社会福祉協会事務所会議室

医療福祉相談会の報告

報告者 武山 ゆかり

1月28日・29日に15回目となる仮設住宅における茶話会／相談会を実施しました。

1日目の会場は外で遊ぶ姉妹に声掛けると母親を誘って参加してくれました。高齢者との交流が出来、今後のコミュニティーづくりに発展していきそうです。子ども用に用意しておいた折り紙に全員が参加し、寄付された連鶴を取りに行行って下さった方や、折り紙教室に通っていた方など、本格的な作品にも皆で取り組みました。仮設入居後の病気や通院の不自由、医療体制などに話が及びました。知らない土地で、医療機関情報が無い事への不安があるようです。

2日目の会場では、住民集会在が組織されている団地です。しかし、参加者は限られているとのこと。地道な相談活動が必要です。催しの予告に工夫が必要と改めて認識しました。



配布したチラシ&ポスター



折り紙で作った作品たち。
高齢者も子供もどの世代も楽しめました。



なかなか話ができなくて・・・でも今日は、こんなに笑い合えましたよ、と楽しい茶話会になりました。

文責 山田美代子
監修 佐原 まち子

去る平成 24 年 1 月 27 日 (金) 午後 14 時から 17 時、宮城県石巻市 YOU コミュニティホールにて医療ソーシャルワーカーのための研修会を開催しました。震災前に研修会場として使用できていた建物の多くが、津波で破壊され市役所主催の研修会でさえも会場確保に難航しているのが現状の石巻でした。このような事情を踏まえ、祐ホームクリニック石巻では、仮設診療所に YOU コミュニティホールを併設し、多くの専門職家に門戸をひらいておられます。今回、私たちも、ホールを使用させていただきました。開催までの準備は、石巻地域連携実務者ネットワーク・宮城県医療社会福祉協会の皆様のご協力で開催にこぎつけることができました。まだまだ、ご自分達の業務で精一杯という状況の中で、31 名の参加申し込みを頂き、当日は雪模様の天候にもかかわらず 29 名の SW がかけつけてくださいました。

研修テーマ「エコマップをアセスメントに活用する」(講義と演習)

講師 国際医療福祉大学 佐原まち子氏

スタッフ 武山ゆかり氏(司会および現地報告) 山田美代子(演習スタッフ)

はじめに、武山氏が日本医療社会福祉協会の宮城県における発災から現在に至る災害支援活動の報告と現在の取り組みを紹介しました。

そのあと佐原氏よりエコマップの定義、理論的背景、書き方のルール、ソーシャルワークにおける効果などの講義とマップ作成の演習を行いました。マップで現状を可視化しても不足する情報を、タイムラインを併用することで、より時系列も含め可視化されるということ学びました。道具は使いながら工夫し、進化していくものだと思います。



演習は、事例を読みエコマップを書く練習と、講師と山田による面接のロールプレイを 15 分ほど行い観察し、エコマップを作成し、受講者が説明し、講師が解説・講評するという形で進みました。今回の研修は日本協会の災害支援のために日本生命財団から助成金を頂いている事業の一環として実施することが出来ました。このような研修会を開催することで、ソーシャルワークのスキルが向上することが可能であると同時に、宮城県内の SW の交流の場になったように思います。又このような機会を作って、学び合っていけることを期待しております。佐原会長と武山さんは、研修会終了後も、専修大学で仮設サロン支援連絡会の会議に出席されました。私は東京にとんぼ返りのため、慣れぬ雪道を一路古川駅に向かいました。宮城県協会の皆様、是非また会いましょう！お疲れさまでした。

現地支援活動報告①

山田 美代子 (西片医療福祉研究会)

期間：1月21日～1月23日

今回は、武山さんが不在中のボランティア活動でした。同じ時期に活動させていただいたのは、会長の佐原さんと一原さんです。活動内容は、仮設住宅の相談会、PTSD対応へのワークショップ、在宅避難者へのフォローアップ訪問面接でした。仮設住宅への支援は、同じ仮設住宅を1カ月に1回程度の割合で、継続的に支援させていただいています。同じ顔が関わることで、住民の人との信頼関係の形成ができてきたように思います。私が関わらせていただいている仮設住宅の住民の方々の元の居住地は、見事にバラバラです。自宅が半壊または全壊(流失も含む)という同じ体験をしていますが、バックグラウンドが異なります。そこには、なじみの風景もなければ、今までの対人関係もありません。そのような状況の中で、継続し支援していると各団地のコミュニティ形成に関する住民の方の取り組みが見え、力強さや健康な面がみえてきます。共に歩むことによって、少しずつ前に進んでいる実感を得ました。確かに、バトン方式の限界はありますが、何かに焦点を当てて、継続的に関わりながら支援の可能性を感じています。遊楽館閉鎖後は、石巻市の支援活動には月に1回程度のペースになっています。

今回、特に感じたことは、被災者でありながら支援者である専門職へのケアは置き去りにされているように思います。支援者に対してケアという言葉を使ってよいかどうかは議論が分かれるところだとは思いますが…。私は、21日の午後から、祐ホームクリニック主催のイスラエイドが提供する「PTSD対応へのワークショップ」に参加しました。対象は、専門家でした。地元の専門家は自らが被災しているにもかかわらず歯を食いしばり、人を支援していることが伝わってきました。現地の専門家から教えられることは多いと思いました。専門家は、自分が元気でなければ人を支援できないと言いますが、専門家が元気になるための支援ももっともあってよいのだと思いました。改めて、この地震・津波が人の心や生活に残した爪痕の大きさを感じざるを得ませんでした。

最終日は、在宅避難者のフォローアップ訪問面接を1件行いました。すぐ海が見える家にご夫婦で住んでいらっしゃいます。初めて、私を縁側に連れて行ってくださり、海の方を眺めて、目の前の家が何にもなくなって、こんなに海が近いと分かったとおっしゃいました。11月から4回訪問し、終結に至りました。4回の定期面接の振り返りでは、「話すことで、心が落ち着いてきた」と述べられ、ご自身から面接の終結を決めました。聴くことの大切さを実感しました。在宅避難者に関しては、手が届いていない面が多く、支援の必要性がありますが、協会活動としては人の配置が不十分なため、定期面接は稀で、応急的な対処しかできていない現実があることもお伝えしておきたいと思います。武山さんが現地で頑張ってくださいっていますが、量への対応はお一人では無理なのではないかと感じました。

最後になりますが、石巻の漁業の元気な面をご紹介します。石巻は、牡蠣養殖でも有名ですが、市内で唯一、万石浦の牡蠣養殖場が助かったそうです。1日目の相談会后に地元の方にいただいた生牡蠣で、一原さんが牡蠣のオイル漬けを作ってくださいました。22日に別の仮設住宅の茶話会兼相談会の「御もてなし」にお出ししたところ、好評でした。今年初めて食べたと言った皆さん大喜びでした。地元においても、今は、牡蠣は高価で口に入らないということでした。私も一口いただきましたが、ニンニクベースでなかなか美味でした。アパートで、調理ができるのもいいものですね。一原さんごちそうさまでした。

最近、4月1日の夜、一人で石巻に到着した時に、非常に辛かったことを思い出しました。まだまだ、市内全体が瓦礫いっぱい、何もできないと思いました。

私が、現地の責任者をしていた頃とフェーズは変わってきていますが、変わらないことは、災害支援で大事なことは、人の尊厳を守り、維持し、促進していくことだと思います。私は、個別性を現場の支援活動にどのように適用するのかに、迷いながら支援をしてきました。みんなそうだと思います。でも、現場を持つ私たちは、現実対応を求められ、ジレンマや痛みを感じる中で、知恵を得てきたと思います。

今は、救援・復旧の時期が過ぎ、スピード感よりも、多様なニーズ充足に向けた支援活動が必要です。それは、捉えどころがなく、援助者側も不安になるのかもしれませんが。地域を基盤としたソーシャルワークの展開の中に、我々の存在意義を見出して貢献していく知恵を培っていきませんか？現地は冬です。この寒さの中に少しでも「ぬくもりを感じる事ができたら生き延びられる人々がいる」ことを知っていただきたいと思います。是非、時間を作って石巻に足を運んでみてください。来てみれば、ソーシャルワーカーの役割が見えてくると思います。また、現地に来るだけが支援ではないということもお伝えしたいと思います。それぞれの立場を尊重しながら息の長い支援活動ができますことを願っています。

現地支援活動報告②

山崎 敦子

期間：1月29日～1月30日

災害支援として、医療ソーシャルワーカーとしての自分がどのように関わっていけるのか、力量が必須なのではと悩みながら参加させて頂き、たくさんの大きな学びとなり、大きなMSWの意義を感じました。何が出来た訳でもないのですが、ありのままを感じる、そこから、全てが始まることを、出会ったすべての方からお教え頂きました。仮設住宅での生活状況、孤独・アルコール依存になる可能性の高い実態があります。カンファレンスなどの同席から得たもの、どのタイミングで、どのような対応をしたか否かで、人生に関わっていること。それが、私自身にも言えることであります。70歳代の被災者の方から、「人は支えあって生きていくの、あなたたちは、これからもずっと支える側でいて欲しい」と話されていました。茶話会などイベント開催、個々に対しての介入の必要性など、ありとあらゆるものがあり、ひとつひとつを熟していく着実な力が求められていると考える時間となりました。いかなる現場でも、その現場だからこそ学び、行動となるものがあり、今の自分に出来ることは何かを考えた時間となりました。いろいろな事が、言葉では言い表せない程、心にグサッと強くささっています。私にとって、これからのMSWとして、大きな財産です。

全国からの支援をみなさん待っています。力量は必要無いといってもいいかもしれませんが、笑顔であれば！ 現場に来て頂けることを祈っています。「これがMSWの力です」と繋がっていきましょう！！

現地感想文

1月23日(月)

今日は在宅避難者の三次チェック(調査結果を見て、次の会議までにフォロー職種を選定する作業です)の依頼が112件どさっと来ました。

初めてだったので今日は戸惑ってあまりできませんでした。明日以降また件数が追加されるのでどんどんやっていかなければなりません。

祐HCの方が即座にわかりやすいマニュアルを作ってくださったので、何とかします。

1月24日(火)

今日は、調査ケースの振り分けに時間がかかりました。沢山の仕事量に、一原さんも遅くまで仕事をして、ぎりぎりに帰られました。

1月25日(水)

仮設の居住者の支援要請を市立病院の看護師さんと取り組み、地域につなげました。

外来での化学療法の方を支える家族も、雪道を早朝・深夜に通うのは命がけです。

お手伝いできることがあってよかったです。巡回で頑張る看護師さんからの要請も嬉しかったです。

1月26日(木)

今月いっぱい、全壊家屋の取り壊しや修繕の申請が終わるというのに、会議に行く途中歩いた北上川沿いには、まだ多くの放置された倒壊家屋が続いています。悲しい風景に、雪もチラつき、ゆるやかで綺麗な流れの北上川が恨めしく思えました。でも、夕方からの会議に三々五々集まる仮設支援のボラさんは、楽しくて賑やかで、元気が出ました。

1月27日(金)

本日の研修会には、宮城県内遠くからもMSWが集まって来られ、暖かい交歓風景が見られました。地元包括からも参加者がありました。

1月28日(土)

ご近所のSOUZAIYA味六亭さんは、今日「うにごはん」がおすすめ!美味でした。みなさま、石巻へおいでになれば、食べられますよ、牛タンもいいですよ~。

1月29日(日)

茶話会では、「こんなに笑ったのは久しぶり」と喜ばれました。雄勝の海明け(春の大潮)の話題や、養殖の今後について話が及びました。仮設ではすることがないから、暖かくなったら仮設に畑でも・・・の声が聞かれました。少しずつ、前に向かう話も出てきています。

事務所感想文

1月24日(火)

佐藤(自宅)

2月以降のボランティアの募集が増え始めました。本日はボランティア保険の手続きに中川事務局長が行ってくださいました。本当にありがたかったです。

1月25日(水)

佐藤(自宅)

1月27日に現地で行われる研修会の準備と重なり、1日慌ただしく過ぎました。病院で働いていた頃が懐かしくなる忙しさでした。

1月28日(土)

伊藤(渋川総合病院)

初めて1日ひとりの事務所でした。不慣れなこともあります。どうもはかどりませんでした。事務所にもたくさんの方がいらしていただけたら良いと思います。